

あり方検討会の結論（報告書P20）

- 保養所事業は廃止すべき。
- 品川荘は民間への施設譲渡を検討すべき。一方、光林荘は区が保有し、子どもの学びの場に特化すべき。
- 保養所事業廃止により不要となる財源は、真に必要な施策に有効活用すべき。
- 一方、保養所を必要とする区民のニーズに対応した事業を検討すべき。

1 検討経過（報告書P1）

令和7年7月2日	第1回あり方検討会
7月29日	区民アンケート（8月31日まで）
8月5日	光林荘視察
8月6日	サウンディング調査（8月8日まで）
8月28日	品川荘視察

2 検討会の主な意見（報告書P2）

- ・ 保養所だけでなく区の事業全体での優先順位を考えるべき。
- ・ 保養所事業は見直す段階にきている。
- ・ 区民利用率が高く、一定の支持があるのではないか。
（品川荘）・ 公共でなければならないのか。
・ 区がやっているから成り立っているだけ。
- （光林荘）・ 校外学習施設は行政としてやっていかなければならない。

3 費用対効果の検証（報告書P5）

今後の想定必要経費で比較
A保養所は廃止【255, 385, 000円】
 （ランニングコスト255, 385千円/年）
B保養所は廃止、光林荘は校外学習施設として継続【1, 884, 704, 000円】
 （ランニングコスト226, 455千円/年 イニシャルコスト1, 658, 249千円）
C保養所として継続【2, 847, 338, 000円】
 （ランニングコスト205, 289千円/年 イニシャルコスト2, 642, 049千円）

4 サウンディング調査（報告書P7～8）

（共通） 設備の劣化分を減額した入札でないと厳しい。

（品川荘） 体験型コンテンツによる集客
 ルームチャージ等、客室の単価増が必要

	A社	B社	C社	D社
宿泊施設としての ポテンシャル	○	○	○	○
売却とした場合の 入札参加可能性	×	△	○	○

（光林荘） 移動教室等を主とした活用
 学校利用でハイシーズンを取られるのは厳しい。

	A社	B社	C社	D社
校外学習施設との 併用	○	○	－	×
売却とした場合の 入札参加可能性	×	△	－	△

5 区民アンケート (報告書P9～11)

実施期間：7月29日～8月31日 回 答 数：387件

主な結果：区民保養所は今後必要か？

必要215 不要115 どちらともいえない46

自由意見：(存続) 物価高の今、安定した価格。現状維持を。
利用料金を少し上げてでも存続してほしい。
区民の保養施設は出来るだけ残すべき
(廃止) 生活に必須でなく税を投入すべきでない。
学習以外の目的でサービス施設を維持する
必要はない。
特定層に偏ったサービス提供はよくない。

6 特別区の状況 (報告書P12～13)

○他区(8区)の保養施設における区民利用割合

最も低い利用割合 20.9% 最も高い利用割合 82.9%

7 校外学習施設の必要性 (報告書P14～17)

○教育的意義 ・豊かな自然体験活動 + 多様な文化遺産
→ 区の掲げる教育ビジョンに適合

○費用対効果 ・光林荘活用226,455千円 民間施設利用255,385千円
→ 光林荘を活用するほうが費用対効果は高い。

8 見直しに向けた検討 (報告書P18～19)

○品川荘の利用状況・分析

利用人数は減少傾向

区民全体での利用人数は少ない(R5:1.56%)

○光林荘の利用状況・分析

団体以外受入停止、一般利用者は大幅減

○保養所を取り巻く状況

旅行市場は成熟、現在でも事業者の創意工夫での運営

○施設の老朽化と区の財政負担の状況

維持管理経費の負担、今後の大規模改修費用の負担